

本新旧対照表は、2026年4月14日付で提出した有価証券届出書の訂正届出書(※)の訂正内容に対応する新旧対照表です。

訂正箇所は下線で示しております。

※ 2025年10月28日付で提出いたしました有価証券届出書ならびに2025年12月22日付、2025年12月26日付、2026年1月5日、2026年1月20日付、2026年2月2日付および2026年3月3日付で提出いたしました有価証券届出書の訂正届出書

(訂正前)	(訂正後)
<p>第二部 企業情報 第2 事業の状況 4 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 (3) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な経営指標等</p> <p>(前略)</p> <p>第2期中間会計期間(自 2025年2月1日 至 2025年7月31日)</p> <p>当中間会計期間においても、利用者数ならびに売上高および営業利益を重視しております。前記「(1) 経営成績等の状況の概要 ① 財政状態および経営成績の状況」に記載のとおり、サービスごとに分析を行っており、様々な認知獲得のための施策の結果、利用者数および売上高は堅調に推移いたしました。一方で、前記「(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容 ① 財政状態および経営成績の状況に関する認識および分析・検討内容 b 経営成績の分析」に記載のとおり、広告宣伝費、外注費、株引換券等に係る引当金等の影響で、営業損失となりました。</p>	<p>第二部 企業情報 第2 【事業の状況】 4 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 (3) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な経営指標等</p> <p>(前略)</p> <p>第2期中間会計期間(自 2025年2月1日 至 2025年7月31日)</p> <p>当中間会計期間においても、利用者数ならびに売上高および営業利益を重視しております。前記「(1) 経営成績等の状況の概要 ① 財政状態および経営成績の状況」に記載のとおり、サービスごとに分析を行っており、様々な認知獲得のための施策の結果、利用者数および売上高は堅調に推移いたしました。一方で、前記「(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容 ① 財政状態および経営成績の状況に関する認識および分析・検討内容 b 経営成績の分析」に記載のとおり、広告宣伝費、外注費、株引換券等に係る引当金等の影響で、営業損失となりました。</p> <p><u>2026年1月期および2027年1月期においても、引き続き、「国民総株主」を早期に達成する観点から、利用者数を重要な指標と捉えております。これに関連して、2026年4月14日時点における当社のサービスの会員数は約260万人(注)となりました。また、将来にわたって利用者へ株式で還元する仕組みを継続できるよう、また持続可能な経営を行うことを目指す観点から、売上高および営業利益を重視しております。営業利益に関しては、2026年1月期において、2025年8月、9月および12月ならびに2026年1月の計4回、単月で営業利益が黒字となりました(注)。加えて、2027年1月期において、2026年2月に単月で約2億円の営業利益(注)を達成しました。</u></p> <p><u>(注) 監査法人の監査を受けておりません。</u></p>